

# 文学生大会(29日)本館封鎖方針を

本館封鎖方針を  
三ヶ月約一決定

数奇大のすべての学友諸君!! 我々は29日文學部学生大会において、6・20評議会決定白紙撤回・对評議会大衆団交渉現をめざして、本館封鎖方針を圧倒的に行なうる学友の支持をもつて決定

したことを報告したい。その後二百五十九名の生徒が決行された運動の結果、本館封鎖はロックアウト、更に電源を切るなどの徹底的な妨害活動にもかかわらず、我々の大衆的な意志と力と行動によって本館封鎖は突破し、文学部自治会の斗う不屈の意志を表現したのであつた。この本館封鎖の意義は何であるかということを我々は再度確認しておくことが必要であろう。

本館封鎖の意義に何んかありますか——に、昨年のストライキ争議が、その内実において「非民主的決定」への怒りを組織したものであり、日が暮つたつれてエネルギーが消耗抜散していったのに對して、今回の斗争は筑波移転の最終局面にあつて、明確に移転推進の流れを逆転させてやくものであり、我々学生の全力をかけた斗争なのだ。オニに、本館封鎖を契機に文学部学生の斗う意志を全学的に明らかにすることに亘つて、全学部の掌委に調査ヒ討上「決定」のもつ重大さを示し全学スケを実現してゆく道もあるのだ。オニに、本館は移転推進の牙城であり全ての移転推進の事ム処理・審議をストップさせ、これ以上移転推進を許さないことである。又、それは、推進派の策動を粉碎し、政府(文部省)の文教政策へ大学上層部への权限の集中、事務機構の肥大化)を実体的に粉碎してゆく二点もあるのだ。△本館封鎖は斗争の出发点であり斗争の内実の強化——文部重奪の日△本館封鎖は、斗争形態の戦術アノアにとどまるものではなく、その内容実こそが問題なのだ。つまり、本館封鎖尽可能にして文学部自治会員の意志とその自質的に否定、くつがえしてやくことを意味するし、我々学生自治の力——斗争を支える力なのだ。本館封鎖は斗争の出発点であり、全学スト実現をめざして、更に、長期スト体制を確立しなければならぬ。

筑波そのものと対決を!!

他学部への働きかけを強め全学ストライキ体制の確立を！

本日、理、農学部では学生大会が行われ、教育学部ではスト枚投票が行われようとしている。文自治会は、合同クラス討論を積極的に推進し、何故我々文学院自治会がストライキで斗つてりのを他学部の学友に鮮明にしてゆく中で、全学ストの実現をめざして、斗つてやこう。それは、文の長期スト体制の確立にまつてはじめて可能となるし、本日、他学部の学友に我々の行動の正当性と、確信をもつて積極的に働きかけてゆかなければならぬ。

△△△

## 文学生大会に長期スト体制確立をめざして結集しよう

本館封鎖を背景に、我々の力を新争として堅持し、7・2 学生大会を压制的半長期スト体制確立の場にしてゆかなければならぬ。文学院自治会は、教育大全學生の先頭に立つて斗つてゆかなければならぬし、我々は斗う意志と隊列をもつて強固に打ち固めようではないか。

△△△

かくとも討議会大衆田交実現のために、6・20 討議会決定は飛躍的勝ちとなるために、そして筑波移転阻止のために△△△

## 〔対評議会大衆印文を要求する聲明〕

大西ハナ木田義則は「筆力第一」の筆者で、又新説の著者で、新説著者上野山城「放歌」

本居宣長の「日本書紀傳」は、その著者によれば、古事記の「日本書紀傳」の後編である。

四

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三